

<株式会社エフエム東京 第 502 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 5 年 10 月 3 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（5 名）

ロバート キャンベル 委員長

佐々木 俊尚 委員

山口 真由 委員

松田 紀子 委員

柴崎 友香 委員

◇欠席委員（1 名）

秋元 康 委員

◇社側出席者（6 名）

唐島 夏生 代表取締役会長

黒坂 修 代表取締役社長

内藤 博志 取締役編成制作局長

宮野 潤一 編成制作局次長 兼 編成部長

若杉 健太 編成制作局制作部長

小林 弘幸 編成制作局制作部プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 110 分／43 分）

TOKYO FM 敬老の日スペシャル

『日本一有名な平社員・玉川徹の「定年ラジオショー」』

2023 年 9 月 18 日（月・祝）15：00～16：50 放送のダイジェスト

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■2023 年 8 月度 聴取率調査結果

ビデオリサーチ 2023 年 8 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果を報告します（調査期間：2023 年 8 月 28 日～9 月 3 日）。今回も 6:00～24:00 の週平均におきまして、TOKYO FM はコアターゲット【男女 18～49 才】区分、また【男女 12～59 才】、【男女 12～69 才】の区分において、在京首位を獲得することができました。

- ◎【男女 18～49 才】首位           (※LF、J-WAVE と同率)
- ◎【男女 12～59 才】首位       (※LF、J-WAVE と同率)
- ◎【男女 12～69 才】首位       (※LF、J-WAVE と同率)

今回の結果はいずれも 3 局同率ではありますが、当社コアターゲット【男女 18～49 才】、【男女 12～59 才】区分は 22 年 2 月以来 10 期連続首位、さらに個人全体区分の【男女 12～69 才】では 22 年 4 月以来、9 期連続首位に更新することができました。

各年代区分では上記のほか、【M1F1（男女 20-34 才）】 【M2F2（男女 35-49 才）】、【男女 20 代】、【男女 30 代】、【男女 40 代】、【男女 50 代】と幅広い年代でも同率含めて首位を獲得できましたが、今回の結果はいくつか課題点もあり、年代別では 50 代以上でスコアは高かったものの、一方で 20 代・30 代層は前回比でスコアを下げていた点。また、曜日別ではこれまで好調に推移していた平日デイトタイムが今回は午前帯から聴取の立ち上がりが弱く、聴取分数でも下降傾向がみられた点など、順位は維持できたものの、当社コアターゲット（18～49 歳男女）は前回よりもスコアを下げており、編成面で今後に課題を残す結果となりました。

次回の調査は、10 月 16 日（月）からとなります。改善課題となった平日ワイド番組を中心に改めて選曲方針や演出面などを総点検し、次回以降ターゲットリスナーの更なるスコア向上を目指し対策を講じてまいります。

■ TOKYO FM リスナー感謝祭 in 渋谷音楽祭 2023 について

10月22日(日)、番組パーソナリティとTFM社員・制作スタッフからリスナーの皆様への感謝の気持ちをお伝えするイベントを開催します。昨年から当社が企画運営社として参画している「渋谷音楽祭」(渋谷区観光協会主催)の1日を使って、エンタメの発信地渋谷の複数の会場——LINE CUBE SHIBUYA(渋谷公会堂)、TOWER RECORDS 渋谷店、北谷公園、AMAZON MUSIC STUDIOを舞台に開催します。

メイン会場となるLINE CUBE SHIBUYAでは、人気バンド「flumpool」の公開収録や、「安部礼司」の公開生放送、そして平日レギュラーワイド番組のパーソナリティ陣「TFM オールスターズ」による、公開生放送を実施。TOWER RECORDS 渋谷店ではAuDee番組の公開収録などを予定しています。ステージや番組の制作のみならず、物販や会場案内等、社員全員が運営スタッフのひとりとなって、リスナーに日頃の感謝を伝えていきます。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】

TOKYO FM 敬老の日スペシャル

『日本一有名な平社員・玉川徹の「定年ラジオショー」』

2023 年 9 月 18 日 (月・祝) 15:00~16:50 放送のダイジェスト

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、9月18日(月・祝)に放送した TOKYO FM 敬老の日スペシャル『日本一有名な平社員・玉川徹の「定年ラジオショー」』のダイジェストです。テレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」のレギュラーコメンテーターとしてお馴染み、この7月に定年退職を迎えた元・テレビ朝日社員 玉川徹氏が初のラジオパーソナリティをつとめました。

理系の大学生だった玉川徹氏がなぜテレビ朝日に入社したのか、入社までの経緯、そして入社後、ワイドショーを担当し、他局にもいない唯一無二の「社員でレギュラーコメンテーター」になるまでのエピソードを振り返り、さらに定年後の人生についても語ります。番組内でオンエアした楽曲は全て玉川氏がセレクト。玉川氏のテレビとは違った一面と語り口が楽しめるスペシャルプログラムです。

【オンエア楽曲】

<15 時台>

- M1. Yeke Yeke / Mory Kante
- M2. She Bangs the Drums / The Stone Roses
- M3. Boy With Luv feat.Halsey / BTS
- M4. This Night Has Opened My Eyes / The Smiths
- M5. スピーチ・バルーン / 大瀧詠一

<16 時台>

- M6. Ditto / NewJeans
- M7. Love Still Flows / The Lotus Eaters
- M8. みなと / スピッツ
- M9. Don't Take Your Time / Roger Nichols & The Small Circle Of Friends

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○玉川氏は、比較的政治的な話のコメントをする人というイメージがあったが、実は美容・健康・抗老化などの話も好きで、語りたかったんだなということに気付いた。テレビ朝日の定年を迎えて、今後はどのように露出していくのかと思っていたが、このように映像ではなく、音声のみのラジオで話し始めると、声は思った以上に柔らかいし、プライベートから人間らしさが伝わってきた。定年後の出演については、出演依頼なども多いと思うが、玉川氏にとってこういった形での出演になったということはとても良い機会になったのではないか。これまでの玉川氏ではない一面を見せようとする TOKYO FM の努力も伝わってきて、両者にとって良い番組になったと思う。

パートナーをつとめた吉田明世氏も元テレビ局のアナウンサーで、非常によくテレビを知っている 2 人のラジオということもあり、とても聴きやすくいいと思った。

○今回は玉川氏のプライベートのエピソードだったが、今後、玉川氏に期待したいのは、1960 年代に生まれて、80 年代に社会人になり、今定年を迎えている世代は、ある種日本の 1 つの象徴なんだろうと思う。例えば年金、1960 年代にスタートして、80 年代に変更・維持して、今それがどうなる、とか、サザエさんやドラえもんの家族像のような、戦後日本が歩んできた道を象徴する者として、今、変革を突き付けられている。そういう時代を生きてきた方々は会社に対してどういう思いを持っていて、人生 100 年時代に 60 歳で定年して残りをどう生きていくのかは、玉川さんを始め、多くの方にぜひ聞いてみたいと思った。

○番組を聴いて、大変驚きがあった。玉川氏の音楽の趣味が非常に多岐に渡っていて「こんなのを聴く人なんだ」とかテレビ番組でのコメンテーターの印象が強かったから「意外に普通の、ちゃんとした人なんだな」という。日本のワイドショーというのはメディア空間の中でも非常に特殊な空間で、メディアが世論をリードするというのは世界でもよくある話だが、リードする主体が、タレントが出演するワイドショーというのは日本の特異な現象であるともう何十年も前から指摘されている。ワイドショーの支持層には高齢者がたくさんいて、高齢者は左でも右でも、極端な意見が好きな人が多くて、逆に若い人にとってはワイドショーって極端すぎるんじゃないのとみている人が多い。なので、シニア層にとっては、玉川さんのような断言してくれるコメンテーターはヒーローに映り、若い人からすると“映画でいうところの悪役”的な存在なのかと。今回もそういった、世の中に意見するヴィラン的なものだろうと思って聴いたので、全然違う！という驚きがあった。ヴィラン的なものを期待していた人にとっては拍子抜けだ、みたいな感覚もあるかもしれないが、そうはいつでもこうやって穏やかにしゃべる新たな玉川徹の一面は

ある種ラジオの人気者になっていく可能性があるのかな、という期待が感じられた。

○AM 局のニュース番組では、聴取年齢層が上ということもあり、世論をかき回そうという意図もあると思うが、TOKYO FM はここ近年、パーソナリティの個性や共感軸で番組づくりをしているので、今回の玉川氏のトークは TOKYO FM らしかったと思う。「玉川さんは実はいい人だったんだ」ってリスナーが驚くというのは大変可能性を感じ、面白いと思う。

○最初は、なぜ玉川氏の番組なのだろう、と疑問に思っていたが、聴き終わった後は玉川氏のイメージが良い方向に変わった。また、丁度、10 年下の私にとってはすごく沁みる内容だった。テーマを決めて、もっと深掘して聴いてみたいと思った。

○テレビと違う面をいろいろ知ることができた。特に音楽。本当に自分の好きな曲をかける時は、その人となりや個性がすごく出る。玉川氏がこういう音楽を聴いているというのは予想外だった。かける曲 1 つ 1 つにエピソードや自分なりの想いみたいなものを語っていて、長年テレビで拝見していたけれど、こういう人だったのかという発見があった。あと、玉川氏が定年とか老後の話をするところにいるということにも驚いた。一昔前の 60 歳や定年退職と全く変わってきている。そんな中で、今やこれから 60 歳を迎える世代は「この後どうしていこう」という不安をたくさん抱えていると思うので、新しいあり方などを提案していくのはとてもいい機会かと思う。

○バブル期の就職の話などは個人的に大変面白かった。中学生からの質問や男性からの定年後の過ごし方の質問に対し、玉川氏が大変前向きに「働き続ける」と返していたところは、就職氷河期を生きた私たちの世代からすると、高齢者含め全員働かされている今の日本で、明るく働いているディストピアのような悲観的なものがイメージされてしまった。それも含め、玉川氏自身の生々しいエピソードがストレートに伝わってきてそれを聴いた様々な世代の人たちがいろいろなことを考える場になる可能性を感じ楽しく拝聴した。

○私は逆に、玉川氏はこういう人じゃない、というイメージがなくて、時に荒ぶるコメンテーターというシーンも拝見していたが、性格は温和で多趣味だというのはテレビからでも垣間見られ伝わっていた。ただ、コメンテーターの 1 人ではなく、単独のラジオ番組、もちろん吉田明世氏もいたが、として聴くことができたのは初めてだったので、とても良かった。

●打合せで初めてお会いして、本当に知識の幅が広く、何でも話せる方ということ

もあり、番組としては少し広げすぎてしまったところもある。次回はもう少しポイントを絞って深い話を聴いてみたいと思う。

●今回番組制作にあたり、テレビの玉川氏の延長にならないようにということを、テレビから映像を取っただけにならないようにしようという意図があった。テレビでは、彼はディレクター出身でもあるので、演出をしている。羽鳥氏がプロレスで言えばベビーフェイスで自分はヒールっていう。悪役だともおっしゃっていたが、そういう演出をラジオの場合は除いて、素の玉川氏を出していただきたいと最初に意図を伝えた。そして、初めてのことであるので、プロフィール紹介的な前半にしたが、そこは物足りなかった部分もあるかもしれない。本当は生放送でやりたかったが、試験的に録音にした。今日頂いた意見を踏まえて、第 2 弾・第 3 弾を続けていきたい。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

10月28日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>